

大阪医科大学学報

第58号 平成15年11月
(インターネット版)



七竜の實(ナナカマドの実)

目 次

大阪医科大学の誕生	2
事務組織の改編	6
規程関係	6
寄付金	8
助成金 科学研究費補助金	11
平成16年度入学試験要項(概要)	12
中山国際医学医療交流センター関連	16
研修報告	18
盛記念学術賞	21
学内行事	22
医療安全対策室関係	24
市民公開講座	24
会議・行事予定	25
受賞	26
叙勲について	26
附属病院関係	27
保健管理室からのお知らせ	29
大阪医科大学 歴史資料館 展示対象資料	31
俳句	32

~横山高治著『北摂歴史ロマン』より~

大阪医科大学の誕生

学 歌（抜粋）

- 一、暁映ゆる東の 山紫に水白く
天地こむる曙の 帳静かに明けゆけば
濃緑つづく松の辺に 立つ学舎の影ををし
- 四、北安満山に春暮れて 南にうねる大淀の
彼方に霞む生駒山 浪速の浦はかげろひて
夕日の西に沈む時 瞬きそむる指南星
- 五、嗚呼南溟の空遠く かのアマソンの岸の花
はた崑崙かゴビの原 吾等の春は遠くとも
消えゆく若き日をおしみ 時の歩みの跡とめん



高槻はよくよく考えてみれば、大阪医科大学の“城下町”である。この町には戦国時代、キリシタン大名の高山右近が近江国安土からセミナリオを移し、城と聖堂を建て、日本で有数のエキゾチックな城下町を出現させた。それが江戸期には高槻藩・永井日向守三万六千石の城下町に……。

御一新で藩がつぶれ、お城も堀も姿を消すと、明治42年、陸軍工兵第4大隊（のち工兵第4連隊）が設置され、ラッパが鳴りひびく。そして昭和2年、大阪高等医学専門学校、同23年の昇格による大阪医科大学の誕生で学舎、附属病院を中心に異国情緒ただよ文化都市へと衣がえしてゆく。

昭和から平成へ。翔ぶが如くに発展を遂げた高槻の歴史の中で、大阪医大は大きな比重を占めている。そのシンボル、中世ドイツのライン河畔の古城を思わせる学舎も長年、市民に親しまれてきたが、その北側に鉄筋12階建て、高さ53m、北摂地方随一のノッポ・ビルという総合研究棟が平成2年の春竣工し、高槻の新名所となった。

西洋医学を主軸にした異国文化。かつて田園の中に大阪高等医専のキャンパスがこつ然と出現した時、汽車の旅をする人びとは目をパチクリさせたが、今、われわれ高槻市民は発展を続ける大阪医大に、そして1日平均2,200人余の外来患者が受診する附属病院に大きな信頼と期待を寄せている。

昭和のはじめ、桜花らんまんの春。学生たちは緑濃い「陸の天の橋立（あまのはしだて） 八丁松原」や上宮天満宮の柱に、学歌や逍遙歌をうたって、ふるさとを偲んだ。

古城のあとに草もえて
さまよいゆけば岸近く
やよいの淀に花は舞う
北安満遠く風立ちぬ

この青春のうたごえに、高槻の若い娘さんたちはどんなにか胸をときめかせたことだろう。

往時を偲び大阪高等医専の「創世紀」をさぐってみると、これまた激動の昭和の幕あけにふさわしい壮大なドラマがあった。

主役は創立者の吉津度（よしづ・わたる）である。医学教育に惚れ、大阪を愛した一代の快男児であった。

大阪細菌研究所附属病院長であり、大阪市議員、大阪府会議長を経て衆議院議員。アクの強い政友会のボスであり、なおかつ敬けんなクリスチャン……。

「医学のうんおうを究めることも大切だが実用的な医師の養成は国家の急務」

の信念に燃えた吉津は、大正15年10月1日、文部大臣岡田良平に財団法人大阪高等医学専門学校設立の許可願書を提出、昭和2年2月28日、認可を得た。

当時、海外進出を打ち出した拓務省が

「国土が狭く、物資の乏しい、人口過剰のわが国にとって当面の重要問題は移民であり、このためには移民先での移民の衛生と教育問題を迅速に解決する必要がある」

との方針を発表したのをチャンスに実行したのだ。これには医学教育の立場から東大など教授陣の医育統一論派の反対もあったようだが、吉津は医専設立促進を政友会の党議で決定させた。幸いにも政友会の実力者であり、京阪電鉄社長の岡崎邦輔が

「オレにまかせろ」

ボンと胸を叩いた。

岡崎の土性っ骨、先見性、事業手腕もあったろうが、京阪電鉄はその頃、系列下の新京阪電鉄の事業拡大をめざし、京都 大阪間の淀川北岸に、国鉄東海道線との平行路線を計画中だった。いわば今日の阪急京都線のプランで、これに加えて同線が大阪・天六から淀川を渡り、大阪市民の飲料水源である柴島水源地内を通過するに当たって、吉津が協力し、岡崎はその恩に感謝していた。

だから医専設立願にも、理事として、大阪市此花区上福島中・吉津度、大阪府北河内郡川越村・太田光瀧、大阪府三島郡千里村・松島寛三郎が名を連ねた。

太田は京阪電鉄社長、松島は京阪電鉄取締役、ひと昔前の住所にも歴史が感じられる。

資金面では京阪電鉄の協力を得た。次は医専の真価を示す教授陣だ。

吉津はまず親友の府立大阪医大（阪大）生化学教授古武弥四郎に相談し、古武は恩師の京大総長荒木寅三郎を最高顧問にかつぎ出した。うまく運び、京大と府立大阪医大からそれぞれ10人、他に岡山医専（岡山大）、千葉医大（千葉大）、東大OBから5人を加えて、教授陣が揃い、初代校長に京大医学部長だった足立文太郎が決定した。

大正15年11月3日、吉津は設立事務所で記者会見し、学校設立について、

▷修業年限を5年▷1期生200人募集▷昭和2年開校▷校舎を大阪市淀川区下新庄689番地

▷敷地は3,960坪▷校舎は洋館2階建てその他、延べ2,380坪

と発表、校舎設計は米人ウィリアム・メレル・ヴォーリス、施工は大林組と付け加えた。

ヴォーリスの名前が出て、どよめきが起きると、吉津は静かに制し、

「主としてプラクティカルな有用の臨床医家を国家社会に産出するを以て目的とする。また植民地の医

師が払底を告げている。本校は国家的見地から植民地に送るに適する医師養成に特別の考慮をめぐらし外国語は数種の講座を設ける。財源はすでに750,000円を握っている」

と教育方針を述べ、万丈の気を吐いた。このひと言から国家有為の医師がぞくぞく輩出し、ヴォーリスの昭和の名建築が出現。ひいては海外に向かう若き医学徒が戦場に散ることになったことはいうまでもない。因に750,000円という大金は何億円の価値があったかはかり知れない。

かくて昭和2年2月28日開校。4月27日には下新庄の木造トタンぶきバラック建ての仮校舎で高等医専第1期生の入学式が行われた。新入生は希望に燃え、全国から集まった秀才たちである。

大阪医専について、九州医専（久留米医大）、昭和医専、東京医専、岩手医専、そして淀川の対岸、枚方に花の大阪女子高等医専が誕生するが、先駆けの大阪高医師の喜びや知るべし。

「高医」の校章付き角帽をかぶり、胸に5つの金ボタン光る紺サージ、詰めエリの学生服で登校した。ところがいつしか「校舎、附属病院、研究施設を揃えるには下新庄じゃ狭過ぎる」という声が出て、突然、大日本紡績用地のある高槻に白羽の矢が立った。

太田光熙から（昭和3年6月30日付けで）大阪府三島郡磐手村古曾部350番地（高槻市に編入）の8,810坪が大阪高等医専に寄付された。高槻町長の田中忠三郎や大地主の磯村家も協力したようである。

田中の子息で高医OBの田中忠彌が現在、大阪医大の常務理事として活躍しているが、医大のキャンパスも大学町と沢良木町の2か所で92,725平方 m^2 、ざっと30,000坪の広大な敷地にふくれあがった。

昭和3年2月8日、校舎の地鎮祭が挙行された。きびしい寒風が吹きすさんだが、関係者はモーニングや羽織袴で参列し、北に安満山、東に八丁松原、湿地ながら景勝の地に文明開化の礎石を打ち込んだ。

ほどなく鉄筋3階建て延べ約3,000平方 m^2 の本館、同2階建て約1,100平方 m^2 の解剖館、講堂などが姿を現す。

本館は中央に時計塔、玄関はアーチ形。2、3階の窓にはしゃれたステンドグラスがはめ込まれ、屋根の縁どりや玄関の壁には花模様を刻み、重厚な感じ。日本の近代名建築の保存運動を進めている明治建築研究会でも

「イスラム風とヨーロッパのゴシック建築様式をとり入れた異国情緒たっぷりのユニークな建物で、歴史的文化的価値が大きい」

と折り紙をつけたほどだ。

ヴォーリスは明治38年、滋賀県近江八幡市の県立八幡商業学校の英語教師として来日して帰化した。昭和39年5月7日、83歳で亡くなるまでキリスト教の伝道、近江兄弟社（メンソレタムと高校）の発展に尽くすかわら大阪の大丸デパート、西宮の関西学院大学をはじめ関西で2,000棟に及ぶ洋風名建築を残している。

人は高等医専校舎を「サラセン式クリーム色の洋館」あるいは「工兵連隊に因んだ城砦」に見立てたが、信仰の深い吉津に近江兄弟社も協力、ヴォーリスが精根を傾けて設計した。

次にロマンチックな学歌は第3高等学校から来たドイツ文学の林久男教授が作詩、近藤義次（山田耕筰門下の名作曲家）が作曲。のちに創立記念歌は3期生で薬理学教授の羽野寿が作曲した。林はシェレ一研究の権威、羽野はピアノとマンドリンをよくひいたハイカラさん、けだし2人の影響は大きく高医

生は時にうたう。

あわれコレッジの鬼才なく
パイロンハイネの熱なきも
岩を抱きて野にうとう
芭蕉のさびを喜ばず

昭和7年にはめでたく162人の第1期生が巣立っていった。いらい約60年、星移り人変わって6,518人の卒業生を世に送り出した。

「仁泉会」(同窓会)に加わり、各地、大学の医師としてそれぞれに活躍している。

だが、ここでどうしても忘れることが出来ないのが軍医、あるいは軍人となって青春を散らせた若者たちだ。

記録によれば1期生から19期生までが何らかの形で戦争(日中・太平洋戦争)にかかわりを持ち、15期生までのOB2,410人が軍医その他で戦争に従軍し、うち335柱もの尊い犠牲者を出している。

軍医による戦死者の多いことも大阪高等医専の校史の特徴だ。ことに12期生は実に2割が戦死を遂げている。

激戦のサイパンでは岡本信一海軍少佐(5期生)が19年7月18日、玉砕し、沖縄では終戦直後の20年6月、松下典正少尉(7期生)が爆雷を抱いてアメリカ米軍の戦車に体当たりし、壮烈な戦死を遂げた。

その他、南太平洋の島々で、あるいは中国大陸やビルマの戦線で傷つき、飢え、祖国日本のために死んでいった。

自分も軍医であり、仁泉会会長だった1期生の中村安治郎(高槻市西真上)は

「戦争は非情であり、人間の生存からみれば罪悪である。我々の同窓の1期生から14期生までの卒業生中、実に335名の若人が折角、医の道を志しつつも中途にして戦場の露と消えた。戦死した同窓の苦しさ、無念さと遺された肉親の苦痛は想像に絶する……」

と「仁泉会50年史」に記している。

高槻は大都会となり、大学病院はきょうも受診者が多い。平和だ。この平和を大切にしなければならない。大阪医大は人類の敵、病魔と闘うためにきょうも医学技術の研究を続ける。

(敬称略)

参考文献：大阪府史・高槻市史・読売新聞社刊「日本の歴史」・新人物往来社刊「日本の合戦」・山川出版社編「大阪府の歴史散歩」・小村克己著「北摂における国人層の台頭と動向」・徳永真一郎著「賤ヶ岳の七本槍」(PHP)・明田鉄男著「幕末京都」(白川書院)

『北摂歴史ロマン』1992年刊から著者の了解を得て転載させていただきました。

著者：横山 高治氏

昭和7年生まれ 明治大学政治経済学部卒 作家(歴史小説)

三重県津市出身 高槻市天神町在住

著書：藤堂高虎(創元社)など

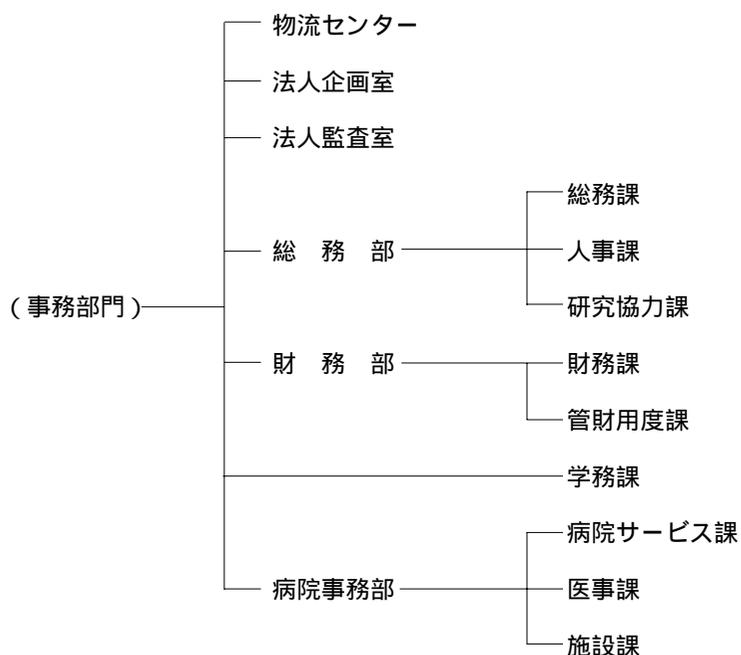
事務組織の改編について

平成15年11月1日付をもって、事務組織が下記のとおり改編されました。

(改編内容)

- ・新たに「財務部」を設け、「財務課」及び「管財用度課」を総務部から移管する。
- ・(学生部) 「学務課」から、(学生部)を削除する。

(事務組織図)



規程関係

規程改正

規程が次のとおり改正されました。

学校法人大阪医科大学事務組織並びに事務分掌規程

第2条に「財務部」を加え、「財務課」及び「管財用度課」を総務部から移管し、(学生部)を削除する。
第5条に「財務部」を加え、「財務課」及び「管財用度課」を総務部から移管する。
附則として「この改正は、平成15年11月1日から施行する。」を加える。

学校法人大阪医科大学早期退職優遇制度（関係条文新旧対照表）

新	旧																																				
<p>第4条 別表 早期退職優遇制度 退職金割増率表（平成15年度）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年 齢</th> <th>割増率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>満50才以上 満54才未満</td> <td>70%</td> </tr> <tr> <td>〃 54 〃 〃 56 〃</td> <td>80%</td> </tr> <tr> <td>〃 56 〃 〃 58 〃</td> <td>60%</td> </tr> <tr> <td>〃 58 〃 〃 60 〃</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>〃 60 〃 〃 62 〃</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>満62才</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>〃 63才</td> <td>5%</td> </tr> <tr> <td>〃 64才以上</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>年齢は、当該年度4月1日現在</p>	年 齢	割増率	満50才以上 満54才未満	70%	〃 54 〃 〃 56 〃	80%	〃 56 〃 〃 58 〃	60%	〃 58 〃 〃 60 〃	50%	〃 60 〃 〃 62 〃	30%	満62才	10%	〃 63才	5%	〃 64才以上	0	<p>第4条 別表 早期退職優遇制度 退職金割増率表（平成14年度）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年 齢</th> <th>割増率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>満50才以上 満54才未満</td> <td>80%</td> </tr> <tr> <td>〃 54 〃 〃 56 〃</td> <td>90%</td> </tr> <tr> <td>〃 56 〃 〃 58 〃</td> <td>70%</td> </tr> <tr> <td>〃 58 〃 〃 60 〃</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>〃 60 〃 〃 62 〃</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>満62才</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>〃 63才</td> <td>5%</td> </tr> <tr> <td>〃 64才以上</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>年齢は、当該年度4月1日現在</p>	年 齢	割増率	満50才以上 満54才未満	80%	〃 54 〃 〃 56 〃	90%	〃 56 〃 〃 58 〃	70%	〃 58 〃 〃 60 〃	50%	〃 60 〃 〃 62 〃	30%	満62才	10%	〃 63才	5%	〃 64才以上	0
年 齢	割増率																																				
満50才以上 満54才未満	70%																																				
〃 54 〃 〃 56 〃	80%																																				
〃 56 〃 〃 58 〃	60%																																				
〃 58 〃 〃 60 〃	50%																																				
〃 60 〃 〃 62 〃	30%																																				
満62才	10%																																				
〃 63才	5%																																				
〃 64才以上	0																																				
年 齢	割増率																																				
満50才以上 満54才未満	80%																																				
〃 54 〃 〃 56 〃	90%																																				
〃 56 〃 〃 58 〃	70%																																				
〃 58 〃 〃 60 〃	50%																																				
〃 60 〃 〃 62 〃	30%																																				
満62才	10%																																				
〃 63才	5%																																				
〃 64才以上	0																																				
<p>附則 この改正は、平成15年8月19日から施行する。</p>																																					

大阪医科大学大学院学則（関係条文新旧対照表）

新	旧
<p>第7条 医学研究科における専攻別主な授業科目は次のとおりとする。</p> <p>形態系 解剖学（ ） 病理学（ ） 微生物学</p> <p>機能系 生理学（ ） 医化学 薬理学 救命病態機能学</p> <p>社会医学系 衛生学・公衆衛生学 法医学</p> <p>内科系 内科学（ ）（ ） 神経精神医学 小児科学 皮膚科学 放射線医学 病態検査学</p> <p>外科系 外科学（一般・消化器外科学 胸部外科学 脳神経外科学） 整形外科学 眼科学 耳鼻咽喉科学 産婦人科学 麻酔科学 泌尿器科学 口腔外科学 形成外科学</p>	<p>第7条 医学研究科における専攻別主な授業科目は次のとおりとする。</p> <p>形態系 解剖学（ ） 病理学（ ） 微生物学</p> <p>機能系 生理学（ ） 医化学 薬理学</p> <p>社会医学系 衛生学・公衆衛生学 法医学</p> <p>内科系 内科学（ ）（ ） 神経精神医学 小児科学 皮膚科学 放射線医学 病態検査学</p> <p>外科系 外科学（一般・消化器外科学 胸部外科学 脳神経外科学） 整形外科学 眼科学 耳鼻咽喉科学 産婦人科学 麻酔科学 泌尿器科学 口腔外科学 形成外科学</p>
<p>附則 この改正は、平成15年8月19日から施行する。</p>	

寄付金

記念継続事業（新総合棟建設）に係る寄付金の応募状況について

区分	項目	寄 付 金	
		件数	総額（円）
会社等（個人・一般含む）		86	69,371,840
仁泉会会員（大阪医科大学卒業生）		106	24,510,000
白友会会員（看護専門学校卒業生）		51	2,748,000
学生保護者		14	5,700,000
本法人役員・評議員		16	7,165,500
教職員（名誉教授・教職員OB含む）		1,547	21,245,000
計		1,813	130,740,340

平成15年9月30日現在

寄付金申込者

平成15年7月1日から9月30日までの間の寄付金申込者は、1件、金額200,000円です。

ここに寄付金申込をいただきました方のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。

（順不同・敬称略）

仁泉会会員 1件 金額 200,000円

岡田 成

寄付金募集についてのお願い

本年7月17日に、長年の懸案となっておりました新総合棟（病院7号館）の建設に着手いたしました。完成後は、教育・研究・診療の水準を格段に向上させると共に、地域医療の基幹病院としての役割を更に強固にするものであります。

この事業には、多額の建設資金を必要とし、その資金確保には、全学挙げて努力しておりますが、本学のおかれている現状では、学生の保護者、仁泉会会員（本学卒業生）、白友会会員（看護専門学校卒業生）、本学関係者はもとより各界、各位に、広くご支援を仰がなければならないのが実情であります。

つきましては、現下厳しい経済情勢の折、何卒本学の意をお汲みとり戴き、格別のご支援を賜わりますよう伏して、お願い申し上げます。

募金目標額：10億円

募 金 期 間：個人（特定公益増進法人寄付金） } 平成14年1月1日～平成18年12月31日
法人（ " " ） }

法人（受配者指定寄付金） 「受配者指定寄付金」の受入承認後から2年間

寄 付 金 額：個人1口1万円としておりますが、できるだけ多数口のご協力をお願いします。

法人1口10万円としておりますが、できるだけ多数口のご協力をお願いします。

当寄付金に対しましては、所得税または、法人税の減免措置が受けられます。

募金に関する問い合わせ先：

大阪医科大学財務課

TEL 072-684-6344（直通）

募金推進委員会の設立と委員の委嘱について

理事長 田中忠彌

去る7月17日に長年の懸案でありました新総合棟（病院7号館）の建築に着手いたしました。これを契機に募金活動を積極的に推進すべく従来の『新病棟建設基金拡充募金委員会』を発展的に解消し、新たに『募金推進委員会』を立ち上げることいたしました。本委員会の特徴は募金対象ごとに戦略を組み立てていく事業部門制をとっております。また委員会のスタッフも大幅に充実いたしました。今後、下記の委員が皆様方のところへ募金の依頼にまいることがあろうかと存じますが、全面的にご協力のほどお願いいたします。

募金推進委員会メンバー表

	氏名	担当		氏名	担当
責任者	田中 忠彌		委員	神谷美佐子	教職員関係
委員長	植木 實	統括	"	富成よし子	"
副委員長	國澤 隆雄	"	"	橋口 直栄	"
"	大槻 勝紀	仁泉会関係	"	安藤 陽子	"
"	北浦 泰	"	"	村上 澄子	"
"	勢川瑠美子	白友会関係	"	成松 正治	"
"	西山 裕子	"	"	松井 清司	"
"	窪田 隆裕	P A会関係	"	斉藤千鶴子	"
"	佐野 浩一	"	"	茂幾 周治	"
"	島田 眞久	教職員関係	"	花房 俊昭	関連病院関係
"	勝 健一	"	"	黒岩 敏彦	"
"	竹中 洋	関連病院関係	"	島原 政司	"
"	米田 博	"	"	池田 恒彦	"
"	檜林 勇	企業関係	"	出坂 秀雄	"
"	河野 公一	"	"	小島 正	"
委員	千原精志郎	仁泉会関係	"	八幡 元清	"
"	玉井 浩	"	"	谷川 允彦	企業関係
"	富士原 彰	"	"	勝岡 洋治	"
"	鈴木 廣一	"	"	南 敏明	"
"	門田 雅人	"	"	清水 章	"
"	吉間 正男	"	"	宮崎 瑞夫	"
"	豊田 瑞恵	白友会関係	"	岩本 暢泰	"
"	小野恵美子	"	"	竹村喜一郎	"
"	城戸 滝枝	"	"	竹内 正保	"
"	絹見 紀一	"	"	足立 憲彦	"
"	鏡山 博行	P A会関係	顧問	美濃 眞	
"	山崎 隆司	"	"	東 郁郎	
"	阿部 宗昭	"	"	平井 博	
"	田中 正寛	"	"	吉田 康久	
"	古谷 榮助	"	"	小倉 裕	
"	平野 勝	"	"	松村 實	
"	森 浩志	教職員関係	"	阪口 春男	
"	清金 公裕	"			
"	芝山 雄老	"	事務局	大槻 哲彦	

学債資金の使途について

理事長 田中忠彌

去る7月17日長年の懸案でありました新総合棟（病院7号館）の地鎮祭が無事執り行われ、2年後の完成に向けて現在工事が進みつつあります。新総合棟構想がスタートして以来、設計案の数度にわたる見直し、施工業者の選定方法及び発注方式の検討、価格交渉等に5年という予想外に長い年月を費やすこととなりました。この構想は本学の苦しい財政状況の基でのターニングポイントとして位置付けておりましたので慎重の上にも慎重を期しました。学債引受者各位におかれましては以上の経緯をご理解頂くとともにご容赦いただければ幸いです。

さて、平成10年11月より2度に亘り学債を募集しましたところ約4億4千万円の応募をいただきました。その後この資金の有効活用により現在までに2千万円を超える果実をえることができました。これらの運用益につきましては今後支払が予想される新総合棟の建築費用に充当するつもりであります。

なお、新総合棟の構想が未成熟の段階で学債を募集したのは、当時すでに日本経済も右肩下がりになりつつありましたので、できるだけ早い時期に募金活動をスタートした方が得策であると判断したことが理由となっております。

さらに、学債資金の活用方法につきましても返還することを前提に慎重に検討した結果、全額を建築資金に充当するのではなく、運用の果実を充当する方が資金繰りの上でスムーズに運ぶとの判断をしたためです。学債の返済時には1度に多額の資金を要するため返済準備金を確保する必要があったためです。

最後に、学報により皆様ご存知のように平成14年度の決算は約11億円の赤字となりました。国の医療費の削減政策、補助金の交付条件の厳格化により本学の収入は激減しております。さらに15年度以降も包括医療制度の導入により医療収入は全く不透明なものとなっております。このような財政状態の中で新総合棟の建築、看護専門学校の整備、学生講義棟の建築等ビッグプロジェクトを実現していかねばなりません。これらに要する資金として自己資金及び借入金を考えておりますが、なお且資金不足は否めないものがあります。

本学の窮状をご理解頂き今後ともご支援ご協力のほどお願いいたします。

以上

学債の返金について

総務部財務課

平成11年1月18日から平成11年2月19日までに応募いただきました『5年もの学債』が、平成16年2月22日に満期を迎えます。学債申込時に大学へお届けの口座にご返金する予定にしておりますが、満期1ヶ月前に償還明細通知をご送付いたしますのでご留意下さい。もし未着の場合は総務部財務課（072 684 6344 内線2611）までご連絡下さい。

以上

助成金 科学研究費補助金

平成15年度 助成金 [公益信託今井記念緑内障研究助成基金]

研 究 課 題	所 属 ・ 職 ・ 氏 名	助 成 金 額
Roh結合キナーゼ阻害薬の視神経乳頭循環障害モデルに対する作用	眼 科 学 教 室 講 師 ・ 杉 山 哲 也	100万円

第16回（平成14年度）緑内障研究奨励「須田賞」[公益信託須田緑内障治療研究奨励基金]

研 究 課 題	所 属 ・ 職 ・ 氏 名	助 成 金 額
Evidence that nitric oxide is involved in autoregulation in optic nerve head of rabbits	眼 科 学 教 室 講 師 ・ 奥 英 弘	100万円

研究種目：基盤研究（B）

研 究 課 題	所 属 ・ 職 ・ 氏 名	決 定 金 額 (千 円)	
		15年度	16年度
造影剤＋超音波によるNFκBデコイ - HGF遺伝子同時導入：移植腎長期生着の試み	泌 尿 器 科 学 教 室 講 師 ・ 東 治 人	3,200	1,400

研究種目：基盤研究（C）

研 究 課 題	所 属 ・ 職 ・ 氏 名	決 定 金 額 (千 円)	
		15年度	16年度
ライブラリーのスクリーニングに基づく生体機能分子のデザインと解析	医 化 学 教 室 講 師 ・ 矢 野 貴 人	1,700	1,600
筋萎縮性側索硬化症に対する単純ヘルペスウイルスベクターによる遺伝子治療の研究	第 1 内 科 学 教 室 講 師 ・ 木 村 文 治	1,900	700
新規PPAR コアクチベーターの機能解析と糖尿病発症機構の解明	第 1 内 科 学 教 室 助 手 ・ 寺 前 純 吾	700	500

平成16年度入学試験要項（概要）

平成16年度入学試験要項（概要）

平成16年度大学医学部・大学院医学研究科・看護専門学校、それぞれの入学試験要項が決定いたしましたのでその概要をお知らせします。

）医学部・医学科

1）入学願書受付期間

平成16年1月5日（月）～1月30日（金）必着のこと。（願書受付は郵送に限る）

2）学科試験日および試験科目

月 日（曜）	時 間	教 科	科 目（出 題 範 囲）	配点
2月13日（金）	9：30～11：10 （100分）	数 学	数 ・ 数 ・ 数 ・ 数A ・ 数B ・ 数C 数Aの科目中、平面幾何・計算とコンピュータを除く 数Bの科目中、算法とコンピュータを除く 数Cの科目中、数値計算・統計処理を除く	100点
	12：30～14：30 （120分）	理 科	「物B・物 」、「化B・化 」、「生B・生 」 の3区分中2区分選択	200点
	15：30～16：40 （70分）	外国語	英 ・ リーディング・ライティング	100点

3）試験場

関西大学千里山キャンパス第3学舎（社会学部）（大阪府吹田市千里山）

4）学科試験合格者発表

2月20日（金）午後4時、大阪医科大学本部キャンパス内に掲示するとともに、出願者全員に対して、電子郵便で「学科試験合格者受験番号一覧表」を送付する。

5）小論文・面接試験

2月23日（月）午後0時30分 本学本部キャンパス（学科試験合格者について実施する）

6）合格者発表

2月24日（火）午後1時、合格者を本学本部キャンパス内に掲示し、本人宛（保護者現住所）にも合格通知書並びに入学に関する手続書類を送付する。

合格者は3月1日（月）午後3時までに入學手続を完了すること。

7）入学検定料 50,000円

8）納入金

納 期 項 目	初 年 度 納 入 金			2 年 次 以 降 納 入 金（年 額）
	第 1 期（入学手続時）	第 2 期（9月15日）	第 3 期（1月15日）	
入 学 金	1,000,000円			
授 業 料	610,000円	610,000円	610,000円	1,830,000円
実 習 料	120,000円	120,000円	100,000円	340,000円
施 設 拡 充 費	410,000円	410,000円	410,000円	1,230,000円
教 育 充 実 費	5,000,000円			900,000円
合 計	7,140,000円	1,140,000円	1,120,000円	4,300,000円

平成16年度入学試験要項（概要）

（註）入学手続き時に、PA会（保護者会）会費（年額100,000円）のうち第1期分50,000円及び学友会入会金5,000円、学友会会費（年会費）10,000円をそれぞれ委託徴収する。

9) 入学手続き完了者で3月25日（木）正午までに本学所定の書面により入学辞退を申し出た場合、入学金以外の納入金を返還する。

10) 入学試験要項の請求方法について

(1) 大学ホームページから直接請求できます。（約2日でお届け致します）

(2) テレメールで請求する場合（約2日でお届け致します）

1. ナビダイヤル（自動的に最寄りのセンターまで接続します） 0570 - 0102 - 00

（PHS等一部の機器からはご利用できません。）

東 京 03 - 3222 - 0102 名 古 屋 052 - 222 - 0203

大 阪 06 - 6222 - 0102 福 岡 092 - 433 - 0102

携帯電話・パソコンからも請求できます。 <http://telemail.jp>

2. 資料番号（6桁）をダイヤルして下さい。 資料番号 179918

3. あとは音声ガイダンスに従い登録して下さい。

(3) 郵便局から請求する場合

郵便局（普通局、特定局）に設置されている「国公立大学・短期大学及び法科大学院通信教育課程 募集要項（願書）請求申込書」（入学願書ゆうパックカタログ）に必要事項を記入の上、1,200円（願書代と送料込）を添え、最寄りの郵便局の窓口で申込んで下さい。受付から1週間程度でお届け致します。

(4) 大学に直接請求する場合

1,200円を現金書留または郵便定額小為替で、送付先の郵便番号、住所、氏名を明記した縦6cm×横10cm位の紙片を同封し、封筒の表に「要項請求」と朱書して下記宛に請求して下さい。

〒569-8686

大阪府高槻市大学町2 - 7

大阪医科大学 学務課 入試係 TEL . 072 - 683 - 1221(代)

(1) (2) (3) の請求方法についての問い合わせ先

全国学校案内資料管理事務センター

TEL . 06 - 6231 - 5992(代) (月～金 9 : 30～18 : 00)

）大学院・医学研究科

1) 入学願書受付期間

平成16年1月5日（月）～1月16日（金）（必着）

2) 入学試験日時、試験科目及び試験場

月 日（曜）	時 間	試 験 科 目	試 験 場
2月5日（木）	9 : 30～11 : 30	外 国 語	本 学
	12 : 30～13 : 30	健 康 診 断	
	13 : 30～16 : 00	面 接	
2月6日（金）	14 : 00～16 : 30	専 攻 科 目	

平成16年度入学試験要項（概要）

3) 合格発表

平成16年3月4日（木）午前9時本学内に掲示すると共に本人宛にも通知する。

4) 入学検定料 30,000円

5) 納付金

項目	初年度納付金			2年次以降 納付金（年額）
	第1期（入学手続時）	第2期	第3期	
入学金	230,000円			
授業料	70,000円	70,000円	60,000円	200,000円
実習料	40,000円	30,000円	30,000円	100,000円
合計	340,000円	100,000円	90,000円	300,000円

）看護専門学校

推薦入学試験（指定高校制）

学 科	第一看護学科（三年課程）	第二看護学科（二年課程）
募集人員	約 15 名	約 10 名
受験資格	平成16年3月高等学校卒業見込みの者	平成16年3月高等学校衛生看護科 卒業見込みの者
推薦基準	推薦者は1学校1名 1) 成績がA段階またはB段階であること。 2) 心身共健康で将来看護師となるに適している者であること。 3) 専願で合格後は必ず入学すること。 4) 学校長の推薦があること。 5) 原則として卒業後本学附属病院に就職すること。	
試験日時	平成15年11月13日（木）9：00～16：00	
試験科目	筆記試験 国語（漢文を除く）・小論文試験 面接試験 適性試験 健康診断（健康診断書の結果、再診断の必要者に実施）	
試験場	大阪医科大学 高槻市大学町2番7号	
合格発表	平成15年11月21日（金） 合否については学校に通知するとともに本人に通知する。	
受験料	20,000円	
受付期間	平成15年11月1日（土）～11月7日（金）消印有効 願書持参は平日9：00～16：30（土曜、日曜、祝日を除く）	
学 費	入学金 150,000円 授業料 175,000円（前期） 実験実習料 25,000円（前期）	

平成16年度入学試験要項（概要）

一般入学試験

学 科	第一看護学科（三年課程）		第二看護学科（二年課程 全日制）	
募集人員	約 25 名		約 30 名	
受験資格	1) 高等学校を卒業した者、および平成16年3月卒業見込みの者 2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者 通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む 3) 外国において学校教育を修了した者またはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者 4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者 5) 文部科学大臣の指定した者 6) 文部科学大臣の行なう大学入学資格検定に合格した者		1) 高等学校衛生看護科卒業および平成16年3月卒業見込みの者 2) 高等学校または中等教育学校後期課程を卒業し、准看護師の資格を有する者 3) 准看護師の免許を取得してから3年以上看護業務に従事している者	
	1次試験	2次試験	1次試験	2次試験
試験日時	平成16年1月26日(月) 9:00～15:30	平成16年1月27日(火) 8:00～	平成16年1月19日(月) 9:00～12:30	平成16年1月20日(火) 8:00～
試験科目	筆記試験 国語（漢文を除く） 数学（二次関数・図形と数量） 数学A（数と式） 生物 B・化学 B のうちいずれか1科目選択 英語 適性検査	面接試験 健康診断 （健康診断書の結果、再診断の必要者に実施）	筆記試験 国語（漢文を除く） 数学（二次関数・図形と数量） 数学A（数と式） 英語 専門科目（准看護師課程において履修した科目） 適性検査	面接試験 健康診断 （健康診断書の結果、再診断の必要者に実施）
試験場	大阪医科大学 本部北西キャンパス 高槻市八丁西町5番37号	大阪医科大学 高槻市大学町2番7号	大阪医科大学 本部北西キャンパス 高槻市八丁西町5番37号	大阪医科大学 高槻市大学町2番7号
合格発表	平成16年1月27日(火) 8:00	平成16年1月31日(土) 12:00 合否については本人宛に郵送で通知する	平成16年1月20日(火) 8:00	平成16年1月24日(土) 12:00 合否については本人宛に郵送で通知する
	いずれも大阪医科大学正門の掲示板に発表する			
受験料	20,000円			
受付期間	平成16年1月5日(月)～1月16日(金) 消印有効 願書持参は平日9:00～16:30 (土曜、日曜、祝日を除く)		平成15年12月24日(水)～平成16年1月9日(金) 消印有効 願書持参は平日9:00～16:30 (土曜、日曜、祝日を除く)	
学 費	入 学 金 150,000円	既納入金の返還	入学手続完了者で3月31日(水)までに書面により入学辞退を申し出た場合、入学金以外の納入金を返還します。	
	授 業 料 175,000円(前期)			
	実験実習料 25,000円(前期)			

アムール医科アカデミー学生夏期研修を終えて

大阪医科大学中山国際医学医療交流センター長
河野 公一

今年7月21日から8月11日までアムール医科アカデミーの女学生3名（Ekaterina Tolstykh, Anna Lysenko, Julia Massalskaya）および男性レジデント1名（Denis Lysyak）が生化学Eugene Borodin教授の引率のもと本学および同附属病院にて研修を行いましたので報告します。

この研修は、両大学の国際交流を目的として新たに始められたもので、昨年夏にはわが校の学生3名が3週間にわたりアムール医科アカデミーで研修を行なっています（詳細は本学学報第54号をご覧ください。また今回の研修についてBorodin教授の感想文が学報第57号に寄せられています）。

本学での研修期間はおおよそ3週間で、センター運営委員の先生方のお世話により、第1内科、小児科、精神神経科、一般・消化器外科、脳神経外科、口腔外科、病院看護部および第1解剖学、微生物学、衛生学・公衆衛生学などの部門において多彩なプログラムが展開されました。

学生の宿泊先はJICA大阪国際センター（茨木市）で、本学にも近く、設備、環境、安全面ともに大変優れており、また多くの外国人研究者や学生が滞在しており、学生達も滞在中に交流の輪がさらに広がったことをとても喜んでいました。



施設見学、図書館棟4階展示フロアにて

研修初日は本学諸施設の案内、附属病院の見学とオリエンテーションから始まりましたが、総合研究棟や、附属図書館、学生講義実習棟などの設備が素晴らしいこと、また附属病院の医療設備の優れていることや外来患者数の多さには驚嘆していました。日頃私達スタッフには気がつかなくなっている本学の環境に敏感に反応する様を見て、かえってこちらが驚くほどで、また考えさせられました。

各科での研修は毎朝9時半にはスタートし、午前、午後ともに目一杯のスケジュールが組まれ、学生達は熱心に課題を消化していきました。また三島救命救急センターや総合保健医療センター、新阿武山病院、製薬会社の医薬研究所、国立国会図書館西館など、ロシアには無い施設の見学ではただ驚嘆するばかりでしたが、研修の終わり近くになった頃にはさすがに少し疲れが出たようでした。

本学でのスケジュールの合間に、高槻市長への表敬訪問が組まれましたが、ロシア学生の訪問やロシアの市長からのメッセージは初めてのことであり、奥本市長や山本助役、清水健康部長など市幹部との懇談はお互いの市民生活をはじめ多方面にわたり、所定の時間を軽くオーバーしたほどでした。会の終わりに奥本市長から記念品とともにAlexander Kolyadinブラゴベスチェンスク市長への親書が託されましたが、今後本学を中心として、市民レベルの交流へと発展することが予感させられました。



表敬訪問、高槻市役所にて



修了証書

研修期間中、本学学生との懇談会も度々持たれ、また京都、奈良、大阪、神戸などの文化施設見学や、各地の夏祭、花火大会などの行事には学生諸君も数多く参加してくれましたが、彼等のすぐに打ち解ける様子には時代の流れを強く感じるとともに、本学学生の英語でのコミュニケーション能力も捨てたものではないと誇らしくも思いました。

アムール医科アカデミーの学生が帰国する日、修了証書を一人一人に手渡し、空港に見送ったときはさすがにほっとしましたが、来年の行事を思うと一度に疲れが出た次第です。

今回の研修について終始ご指導ご助言をいただいたセンター運営委員の諸先生をはじめ、期間中お世話いただいた各部門の教職員各位、さらに本研修をご許いただいた大学法人、島田学長、植木病院長、に対しまして厚く御礼申し上げます。

中国日中友好病院 唐 所長による講演会

この度、財団法人日中医学協会の助成を受けて、大阪医科大学（研究責任者：大槻教授 第1解剖学教室）と中国日中友好病院（研究責任者：唐所長 日中友好臨床医学研究所）間で共同研究を行う運びとなりました。研究課題は「婦人科腫瘍における天龍合剤の治療効果について 基礎的および臨床的研究」です。

この研究の打ち合わせのために来校された日中友好病院・唐所長に次の通りご講演いただきました。

9月26日（金）午後5時～

臨床第2講堂

『腫瘍診断と治療についての
我々の応用基礎研究』

日中友好病院 附属臨床医学研究所
所長 唐 勁天



「学生指導のための窓口対応の効果的な進め方セミナー」に参加して

学務課 渡部奈々江

前学生部長から、学務課員を私大職員研修センターが主催する「学生指導のための窓口対応の効果的な進め方セミナー」という研修に参加させたらどうか、という提案があり、昨年12月に学務課へ異動してきた私に、この話が飛び込んできました。私にとって、事務の仕事に携わるようになってから、このような「研修」に参加するのは初めての経験であったため、非常に興味を持ちながら、参加させて頂きました。

この研修は我々学務課員が学生に対する適切な窓口対応をどう進めるのか、その機会をとおり、学生の大学生活への動機づけをどう高めるのかについての対人対応の基礎的、実践的な取り組みについて研修するとともに、学生指導への責任をよりよく果たし、業務の効果的な遂行に役立つことを目的として開催されたものでした。

カリキュラムは下記のとおり午前と午後の部から構成され、講師は学生指導、学生・社会人の相談役として、現在も第一線にて活躍されている(株)産業心理研究センター所長・社会保険大学校・講師 片平信子氏でした。

(午前)

- . ウォーミング・アップ(おじき、名刺交換のしかた)
- . 大学の組織運営
 1. 大学職員としての役割
 2. 大学職員としての基本的機能
- . 窓口対応で期待される行動
 1. 望ましい窓口対応のしかた
 2. 窓口での学生への対応 事例研究(実習)
- . 学生理解のあり方
 1. 青年期の特徴
 2. 現代学生の一般的傾向
 3. 柔軟な発想と態度

(午後)

- . 学生との対応のあり方
 1. 相手の違いによる対応のしかた
 2. 適切なコミュニケーション
- . 学生指導のあり方
 1. 心に余裕を持って接する
 2. 学生を理解するうえでおちいりやすい誤り
 3. 面接による学生指導 事例研究(実習)
 4. 学生の理解を深める方法
 5. ほめることとしかること
- . 質疑応答

以上

参加大学は17校、参加人数は総勢32名でありましたが、必ずしも学務課員ではなく、会計課、図書館課、また役職も事務員から課長職まで多岐に渡っていました。このように、この研修は「学生指導のための」という但し書きがついていますが、学務課員以外の私大職員あるいは私大職員とは限らずカウンター業務に携わるものにとって、「窓口対応」は避けられない業務であるため、このような多くの課の事務員、指導的立場である役職者が参加していたと思われます。実際、研修が始まると、おじぎ、名刺交換のしかたから始まり、我々大学職員としての役割、基本機能が図式等を使って、講師から簡潔明瞭に教授を受け、自分たちが置かれている立場、役割、目的を理解しなければ業務時に、「何のために」、「どのようにして」、「どうなるようにすれば良いのか」を判断せず、ただ業務を流れ作業的に処理し、無責任な業務遂行に結びつくことを、今更ながら反省させられました。

私は「 . 大学職員としての役割」がこの研修で最も重要な項目になっていたと思います。 については学務課員に限らず、大学全職員、ちょっと角度を変えれば病院職員にも十分適応されます。つまり、我々職員が「大学全体あるいは病院全体のイメージを左右する存在であるという自覚」が最も大切なのです。さらに学務課員は学生と教員の橋渡しの存在であり、学生が一番最初に接する社会人であるため、社会人としての手本になれるよう、的確・迅速な仕事の処理、公正・公平・親切・丁寧・さわやかな態度を心掛けなければなりません。また学生指導は教員だけが担っているのではなく、我々も携わっているという自覚が不可欠です。学生教育は教員の役目であり、我々は無関係であるという錯覚に陥りやすいが、学生がカウンターに来たときの態度、ことば使いなど、ちょっとした日常態度等に関する指導も我々の業務の一部であることを自覚させられました。

大学へ入学してきた大部分の学生は青年期であり、この青年期は知的側面、身体的側面が青年から大人へと大きく変革を遂げる微妙な時期で、我々大人となってしまったものには理解しがたい発言、行動を伴うことがあります。しかし、これは青年期真っ只中の学生と、すでに青年期をとおり過ぎ、その時の心理状態を忘れてしまっている大人感覚とでは大いにずれが生じているのは当然です。このような学生の心理状態等を少しでも理解するためにも青年期の特徴を学ぶことが大切となります。従って、この研修では実に判りやすく、事例を交え、短時間でも理解できるように講義を行なってくれました。最近の学生は青年前期の反抗期を踏まえ成長してきている傾向が強く、つまり、自己主張をせず、自分を押さえ込み、両親あるいは回りの言われるままに従い、自分で物事が決められず精神的自立が殆どなされていない、これを「社会性はあるが社会力がない」と表現されます。これはTPOに合わせて行動ができる（社会性）つまり端的に言えば要領がよく、表面的な付き合いはするが、積極的に自分から社会に関わり、参加しよう（社会力）としない、また欲求に対して、我慢することが出来ないなど、短絡的に行動を起こす傾向が強い。実際、ある大学では学生の三悪事として、「万引き」、「カンニング」、「ゴミのポイ捨て」が絶えず、非常に大学を悩ませている事例があることには驚愕しました。

我々が、このように複雑かつ微妙な時期にある学生に対し、毅然とした態度をとり、感情的にならず、公平公正な目線で、客観的に、なおかつ学生1人1人の性格を考慮することが大切です。しかし、我々も学生と同じ人間であるため自分自身に余裕がなければ、つい感情的に物事を判断してしまうことは避けられない事実です。よって、自分自身にも目を向け、心に余裕が持てるように自分なりのストレス解消方法を習得し、自分自身を常に平常な状態に保つことも重要であることを再認識させられました。

この研修終了後、日常業務に追われ、業務の一部である学生指導を忘れていた自分に反省させられました。今後、学生指導も重要な仕事であることを自覚し、問われたことに対して外的外れないアドバイス等を行なえるよう日々努力を重ね、自分自身を磨いていきたいという強い思いを巡らせながら、帰

研修報告

阪して参りました。

例えば「人」は「臓器」から構想され、「臓器」は「組織」から、「組織」は「細胞」から構成されています。そして、元気でいるためには「細胞」が元気で、その「細胞」が持ちえる最大限の機能を発揮しなければなりません。それと同様に「大阪医科大学」は「人」という「細胞」から構成されています。しかし「細胞」と違い、「細胞」である「人」が最大の能力を発揮するためには、例えば「研修」という補助が必要になってくるのではないかと思います。年々、私立大学をとりまく環境は厳しいものになってきており、私は多数ある大学のうち大阪医科大学が輝くためには「人」を元気にし、なおかつ、その「人」の持っている能力を最大限に引き出せるような「教育」が、本学の将来に大きく影響するのではないかと思います。よって、この研修にて「人」を教育し、育てていくことは、必ず、大学の財産となり、職員の業務に対する目的意識、責任感等の開花にも大いに役立つため、今後、先輩方、後輩達にこのような「研修」に大いに参加していただきたいと思いました。

簡単ではありますが、以上で研修に参加した報告および感想をこの書面をもって述べて頂きました。また、このような研修に参加させていただく機会を与えて下さった前学生部長、大学には深くお礼申し上げます。

下記の図は「柔軟な発想と態度を身につける」という実習にて、出された課題です。興味のある方は一度、考えてみてください。

下図の「W」に直線3本引いて三角形を9つ作ってください。



<http://www.uda30.com/QUIZ99/Quiz-24.htm> (問題)
<http://www.uda30.com/QUIZ99/Quiz128A.htm> (答え)

「第5回盛記念学術賞」受賞者決定

平成14年5月15日付で公示のあった、第5回盛記念学術賞には14名の応募がありました。

盛学術振興基金審査委員会での厳正な審査の結果、次の3名に対し、「第5回盛記念学術賞」を授与することが決定し、8月28日(木)午後3時から学長室において、学長をはじめ同運営委員出席のもとに授賞式が行われました。

1. 助教授以下の教職員（賞金額：100万円） *申請順

- ・助教授（第2生理学教室） 吉田 龍太郎

申請課題「新しいタイプのマクロファージ系細胞による非自己傷害機構に関する研究」

- ・助教授（物理学教室） 和田 明

申請課題「RFHR二次元電気泳動法によるリボソームの構造と機能の研究
100S～70S相互変換による新しい翻訳制御機構を中心として」

2. 助教授以下の教職員（賞金額：50万円）

- ・助教授（産婦人科学教室） 後山 尚久

申請課題「女性のライフステージにおける性機能減衰機構の機序解明への生化学・内分泌学的アプローチおよび中高年女性への全人的対応による Quality of Life 向上を目標とした臨床的取り組み」



前列左から谷川教授、阿部教授、東理事、島田学長
後列左から吉田助教授、和田助教授、後山助教授

学内行事

第55回 西日本医科学生総合体育大会

第55回西日本医科学生総合体育大会は神戸大学を総合主幹校として、西日本の44大学が参加し、兵庫県を中心会場に7月下旬から8月中旬にかけて20種目の競技が行われました。本学の主な成績は次のとおりです。

総合成績：17位

上位成績：1位	剣道新人戦 島田亮	4位	テニス団体戦男子部門
2位	空手道新人戦 佐藤陽平		空手道団体戦
3位	バスケットボール		弓道個人戦男子部門 本橋宣和
	卓球団体戦女子部門	5位	ハンドボール
	水泳男子部門400m自由形 和泉賢一	8位	準硬式野球

今年は総合17位という平凡な成績でしたが、来年は更なる好成績をめざして精進していきたいと思えます。先輩諸氏、教職員の皆様方には温かい御支援、御指導宜しくお願い致します。最後に、今年度をもってクラブ活動を引退された先輩方、本当にお疲れ様でした。我々の身近な先輩として、今後どうか宜しくお願い致します。

平成15年度 体育会会長 小嶋融一

大学祭 2003



今年は「What's Going On?」をテーマに10月11日(土)さわらぎキャンパスにおいて大学祭が開催されました。

同キャンパスに設けられた野外特設ステージでは、午後10時から軽音ライブPart1が行われたのを皮切りに、空手演舞、吉本スーパー爆笑ライブ、ピンゴ大会など多彩なイベントが催されました。

また、キャンパス内でも各クラブが、イベントやクラブ出展を行い、日頃は閑静なキャンパスも、この日ばかりは賑わいを見せていました。

消火実地訓練実施



10月2日(木)午後2時から、消火の実地訓練が高槻市中消防署のご協力により中央資料館南側東門付近にて行われました。

当日は、消化器の取扱い実地訓練が行われ、およそ100名の参加者は、初期消火の重要性について身をもって学ぶとともに、各種災害対策への認識を新たにしました。

人権教育特別講演会



人権教育に関する特別講義が、10月29日（水）午後2時40分から、『患者の人権』をテーマにNPO法人ささえあい医療人権センターCOML 辻本好子氏を講師にお招きし、臨床第1講堂にて開催されました。来聴者は皆熱心に耳を傾けていました。

平成15年度解剖慰霊祭



平成15年度の解剖慰霊祭が、10月18日（土）午後2時から高槻現代劇場において、ご遺族、さつき会会員（生前献体登録者）及び来賓各位をお迎えし、本学役員、教職員並びに学生、看護専門学校生の参列のもと、おごそかに執り行われました。

看護専門学校戴帽式



看護専門学校第一看護学科学生41名に対する戴帽式が10月9日（木）午後1時から本学臨床第1講堂において、来賓及び保護者の方々をお迎えし挙行されました。

名誉・功労教授懇談会



名誉・功労教授懇談会が、10月24日（金）午前11時00分から、いばらき京都ホテルで開催されました。今年は美濃名誉教授が幹事を務め、12名の名誉教授、4名の功労教授が出席されました。

医療訴訟ガイダンス



(講演会風景)



(意見交換会風景)

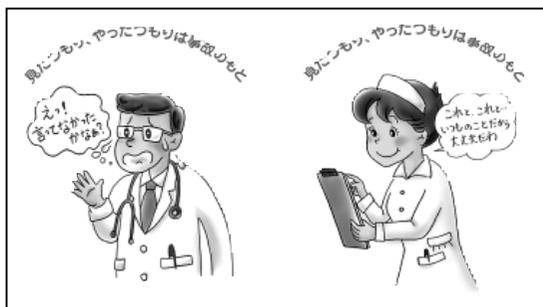
医療訴訟ガイダンスが10月31日(金)午後5時から、臨床第一講堂において大阪地方裁判所第17民事部裁判長、裁判官、及び書記官をお迎えし、教職員(医療従事者)約360名出席のもと開催されました。

中本敏嗣裁判長及び植木實病院長の開催挨拶、中本敏嗣裁判長による「今日の医療訴訟」、関根澄子裁判官による「鑑定の実務」の講演に続き、裁判官と本学教職員との「意見交換会」が行われました。

なお、講演会当日は参加者多数のため、臨床第二講堂においても講演会等の同時中継が行われました。

平成15年度医療事故防止の標語が決定

安全確保に対する意識向上のための「平成15年度医療事故防止の標語」が約40の応募の中から、安全管理常務委員会、事故(防止)対策小委員会での厳正な検討の結果、13病棟 南 奈津子看護師が提案した「見たつもり、やったつもりは事故のもと」に決定しました。



(標語シール)

平成15年度 市民公開講座

平成15年度市民公開講座が下記のとおり開催されました。

[第4回]

9月20日(土) 午後2時～ 臨床第1講堂

『たんぱく尿、血尿と言われたら』

講師 本学 血液浄化センター長 井上 徹

『腎炎に使われるおくすり』

講師 附属病院薬剤部 西原 雅美



主要会議とその主な議題

8月1日から10月31日までの主要な会議とその主な議題は次のとおりです。

[理事会]

(8月19日)

- 審議事項 -

1. 大阪医科大学大学院学則の一部変更について
2. 学校法人大阪医科大学早期退職優遇制度に関する規程の一部改正について
3. 新総合棟（病院7号館）関係寄附金募集額の変更について
4. 卒後研修終了後のキャリア・ビジョンについて

- 報告事項 -

1. 看護専門学校々舎基本設計案について
2. 担当理事運営会議報告
3. その他（学事・病院関係事項報告）

(9月9日)

- 審議事項 -

1. 看護専門学校々舎基本設計案の承認について

- 報告事項 -

1. 担当理事運営会議報告
2. その他（学事・病院関係事項報告）

(10月21日)

- 審議事項 -

1. 理事の選任について
2. 講座・学科目の再編について
3. 大阪医科大学附属病院規程、同細則の制定について
4. 大阪医科大学附属病院病院運営会議規程の制定について
5. 大阪医科大学附属病院病院教員人事委員会規程の制定について
6. 大阪医科大学附属病院長予定者選考規程の制定について
7. 大阪医科大学附属病院長予定者選挙管理委員会規程の制定について
8. 大阪医科大学病院教授（称号）規程の制定について
9. 学校法人大阪医科大学事務処理規程の一部改正について
10. 新総合棟（病院7号館）募金趣意書について

- 報告事項 -

1. 担当理事運営会議報告
2. 日本私立医科大学協会理事会報告
3. その他（学事・病院関係事項報告）

[教授会]

(9月3日)

1. 人事に関する件（講師の任用他）
4. 機器共同利用センター運営委員会委員の変更に関する件
5. 治験審査委員会外部委員の委嘱に関する件
6. 教育センター委員の委嘱に関する件

(9月17日)

1. 人事に関する件（学内講師の任用他）
3. 附属看護専門学校校医の委嘱に関する件
4. 教育研究・設備・装置補助費調整機構委員会委員及び委員長の改選について
5. 学長予定者選考規程改正委員会委員、学長予定者選挙管理委員会委員及び各委員長の改選について

(10月1日)

1. 人事に関する件（学内講師の任用他）
2. 医化学講座担当教授選考に関する件
3. 学長予定者選考規程改正委員会委員及び学長辞任請求規程改正委員会委員の委嘱に関する件
4. 学長予定者選挙管理委員会委員の委嘱に関する件
5. 学科目・講座再編委員会委員の委嘱について
6. 組換えDNA実験に関する安全管理規程検討作業部会部会長及び部会員の委嘱について

(10月15日)

2. 医化学講座担当教授選考に関する件
4. 大阪医科大学附属病院臨床研修医規程について
5. 医学部/病院区分の教員定員の修正について
6. 機器共同利用センター運営委員会委員の変更に関する件

[大学院医学研究科委員会]

(9月3日)

1. 海外研修の許可願出について

(9月17日)

1. 研究生の願出について

(10月1日)

1. 中央研究施設再編委員会委員の委嘱について

会 議・行事予定 受賞について

(10月15日)

1. 平成16年度大学院学生募集に関する件

主な行事日程表

11月1日から1月31日までの学内における主要な行事予定は次のとおりです。

- 11月5日(水) 教授会・大学院医学研究科委員会
- 13日(木) 看護専門学校推薦入学試験
(第一看護学科・第二看護学科)
- 15日(土) 市民公開講座
- 17日(月) 第6学年総合試験(21日まで)
- 18日(火) 理事会
- 19日(水) 教授会・大学院医学研究科委員会
- 20日(木) 関連病院長会議
- 12月1日(月) 理事会
- 3日(水) 教授会・大学院医学研究科委員会
- 6日(土) 実験動物慰霊祭
- 8日(月) 学位論文提出のための語学試験
第2学年後期試験(12日まで)
第3学年後期試験(19日まで)
第6学年総合試験(12日まで)
- 16日(火) 理事会

- 17日(水) 教授会・大学院医学研究科委員会
- 20日(土) 市民公開講座
医学部学生冬期休業
- 21日(日) 看護専門学校冬期休業(1月7日まで)
- 24日(水) 看護専門学校入学願書受付開始
(第二看護学科:1月9日まで)
- 1月5日(月) 年賀交歓会
医学部入学願書受付開始(1月30日まで)
大学院医学研究科入学願書受付開始
(1月16日まで)
第1・2・3・4・5学年授業再開
看護専門学校入学願書受付開始
(第一看護学科:1月16日まで)
- 7日(水) 教授会・大学院医学研究科委員会
- 14日(水) 学位論文受付締切
- 17日(土) 市民公開講座
- 19日(月) 看護専門学校第二看護学科入学試験
(20日まで)
- 20日(火) 臨時評議員会・理事会
- 21日(水) 教授会・大学院医学研究科委員会
- 26日(月) 看護専門学校第一看護学科入学試験
(27日まで)

受賞について

平成15年9月25日、第28回日本医用マスペクトル学会年會にて質量分析の医学応用の分野において優秀な業績をあげた研究者を讃える奨励賞を病態検査学宮崎彩子学内講師が受賞されました。

写真は同会会員の田中耕一氏(2002年ノーベル化学賞受賞者)から祝辞を受ける受賞者の風景です。



叙勲について



阪口 春男 法人監事
旭日中綬章

平成15年「秋の叙勲」で、永年の法曹界への貢献に対し、阪口 春男法人監事が、旭日中綬章を受章されました。

平成16年度 臨床研修医募集要項

平成15年6月26日
大阪医科大学附属病院

1. 募集人員 65名以内
2. 応募資格 平成16年実施の医師国家試験合格見込の者
3. 応募締切 平成15年7月31日(木)まで。
4. 提出書類 臨床研修医願書
履歴書 [別添 本院所定様式、上半身の写真を貼付のこと]
住民登録票
卒業(見込)証明書
学長または学部長の推薦書 [医師国家試験合格見込の者のみ]
健康診断書 [別添 本院所定様式]
5. 試験日 平成15年8月9日(土) 午後1時~
6. 試験会場 大阪医科大学 臨床第一講堂
7. 選考方法 面接及び小論文
8. 臨床研修許可発表 郵送をもって通知する。
9. その他 研修プログラムは別に定める。

平成16年度 臨床研修医募集要項(歯科)

平成15年9月16日
大阪医科大学附属病院

1. 募集人員 5名以内
2. 研修科目 歯科口腔外科
3. 処遇 臨床研修手当 220,000円(予定)
社会保険・労働災害保険 適用
4. 応募資格 平成16年実施の歯科医師国家試験合格見込の者および歯科医師免許証を有する者。
5. 出願期間 平成15年10月1日(水)から平成15年12月12日(金)まで。
6. 提出書類 臨床研修医願書 [別添 本院所定様式]
履歴書 [別添 本院所定様式、上半身の写真を貼付のこと]
住民登録票
卒業(見込)証明書
学長または学部長の推薦書 [歯科医師国家試験合格見込の者のみ]
健康診断書 [別添 本院所定様式]
本院の志望理由 [別添 本院所定様式]
7. 研修方法 ストレート方式
8. 選考方法 詳細は、歯科口腔外科から出願者に通知する。
9. 臨床研修許可発表 郵送をもって通知する。
10. 臨床研修期間 平成16年5月1日から1年間
11. その他 研修プログラムは別に定める。

お問い合わせ先	〒569 - 8686 大阪府高槻市大学町2番7号 大阪医科大学附属病院 病院事務部 病院サービス課 TEL (072) 684 - 6305 [直通] E-mail hof013@poh.osaka-med.ac.jp
---------	---

附属病院関係

平成15年度上半期附属病院患者動態

本年度上半期の患者動態は下記のとおりです。

(平成15年4月～平成15年9月)

	入院患者数	外来患者数	対前年度増減率%	
			入院患者数	外来患者数
H15.4	(827.9) 24,836	(2,195.9) 50,506	1.24	6.61
H15.5	(807.6) 25,037	(2,234.5) 51,393	0.86	2.21
H15.6	(842.7) 25,282	(2,187.7) 50,316	0.87	0.41
H15.7	(811.7) 25,163	(2,242.9) 53,829	4.86	2.83
H15.8	(830.1) 25,733	(1,926.8) 46,244	3.74	9.23
H15.9	(812.3) 24,369	(2,178.5) 47,928	3.61	2.34
合計	(822.0) 150,420	(2,159.8) 300,216	2.17	3.96

- ・平成15年度上半期入院関係稼動日数 183日(平成14年度も同じ) ()内は、1日平均患者数
- ・平成15年度上半期外来関係稼動日数 139日(平成14年度は137日)

たばこ、やめてみませんか？

今年5月1日より健康増進法が施行され、大勢の人が利用する施設について、受動喫煙（自分の意思とは無関係にたばこの煙を吸ってしまうこと）を防止する対策が講じられました。本学においても、9月1日より病院内の禁煙と合わせ、喫煙場所が7号館建設予定地付近の病院外に移動しました。喫煙者は肩身の狭い思いをされていることでしょう。

現在たばこを吸われている人の7割が、喫煙について「やめたい」「本数を減らしたい」と思っているというデータがあるそうです。「たばこをやめたい」と思われている人は、喫煙が健康に及ぼす影響、吸わない周囲の人への被害も十分ご存知だと思います。たばこの害については、マスメディアをはじめ様々なところで説明されています。今回、ここでは「たばこをやめて得られるメリット」を取り上げてみました。このページをご覧ください、「たばこをやめたい」という願望から「やめよう」という意志に変わり、禁煙が実行されるきっかけになれば幸いです。

たくさんあります、禁煙で得られるメリット

がんなどの成人病の予防になる

歯がきれいになり、息やからだのいやな臭いが消える

味覚がよくなり、食事がおいしくなる

多少の運動では息切れしなくなる

せきやたんが少なくなる

目覚めがさわやかになる

血行がよくなり、肌がきれいになる、

手足の冷えがなくなる、肩こりがなくなる

疲労回復が早くなり、よく眠れるようになる

人に不快を与える心配がなくなる、肩身の狭い思いをするわずらわしさから開放される

こづかいが減らなくてすむ、たばこの値上がりをお心配しなくてすむ

部屋の中、車の中がきれいになる



どうですか？こうなればいいと思われるメリットがいくつもありますか？

喫煙者の皆さんは、たばこを吸うことでストレスを解消されていますね。しかし、こんなことはありませんか？「たばこを切らすとイライラする」「不安で仕方がない」など。このストレスはまさに「たばこ」が作っているのでしょう。禁煙することで、ひとつストレスを解消させることができそうです。

禁煙を開始して、しばらくすると様々な禁断症状がでてきます。その症状や、どうやって対処するかなどいくつかのパンフレットを保健管理室で用意していますので、是非ご利用下さい。

保健管理室のホ - ムペ - ジができました

保健管理室のホームページが出来ました。今後、健康診断やワクチン接種のインフォメーション、健康管理に関する情報などを掲載していきますので、ご利用下さい。

URL <http://www.osaka-med.ac.jp/deps/hcs/>

保健管理室からのお知らせ

一人一人の注意でインフルエンザを予防しましょう！

冬季に入り、インフルエンザのシーズンとなりました。インフルエンザは単なる“風邪の一種”ではなく、時には致命的となるウィルス感染症で、特に高齢者や乳幼児、基礎疾患を有する患者様では生命にかかわることとなってきます。私たち医療従事者はインフルエンザに感染する可能性が高い集団であるとともに、ハイリスク群（患者様）にインフルエンザを伝播する可能性が高い集団であることも十分に認識し、予防に努めるべきでしょう。また今冬は、SARS再流行が大いに懸念されています。インフルエンザとSARSの初期症状は似ていますので、混乱を避けるためにも、教職員、学生一人一人の注意が必要です。

1 予防の基本はワクチン接種です

インフルエンザの予防には流行期前のワクチン接種が有効です。インフルエンザの流行時期は12月～3月下旬（ピークは1月～2月）ですので、11月頃までにワクチン接種を受けることが望ましいとされています。

本学では11月5日、6日（学生対象）、11月11日～13日（教職員対象）にインフルエンザワクチン接種を実施致しました。未だワクチン接種を受けておられない方は、他の医療機関を受診し、ワクチン接種されることをお奨め致します。

なお、鶏卵アレルギーの既往歴を有する場合は、必ず医師に相談して下さい。



2 日常からの健康管理が必要！

- a) 体力低下を防ぐためにも、低栄養の予防、過労防止、睡眠・休養の確保、生活リズムの維持、適切な水分補給を心がけましょう。
- b) 食事や作業の前後、外出後などは十分に手洗いとうがいをしましょう。手拭はペーパータオルや温風乾燥機が望ましく、タオルの共用は避けた方が良いでしょう。
- c) インフルエンザウィルスは低温・低湿を好むため、加湿器などで適度な温度、湿度を保つことが効果的です（22 前後の室温、50～70%の湿度を保つことが望ましいとされています）。
- d) マスクは気道粘膜の乾燥を防ぎ、直接飛沫による感染をある程度防ぐ効果があります。流行時期の人ごみへの外出時にはマスクを使用しましょう。
- e) 罹患が疑われる症状が出現した場合、早めに受診し治療を受けましょう。早期の治療は自分を守るだけでなく、他人への感染を防ぐためにも重要です。

3 回目 B 型肝炎ワクチン接種・3 回ワクチン接種後抗体検査のお知らせ

下記の要領で第3回目 B 型肝炎ワクチン接種、3 回ワクチン接種後抗体検査を実施致します。対象となられる方には案内を個人通知致しますので、受検して下さい。

【第3回目 B 型肝炎ワクチン接種】

日時 平成15年12月3日(水)、4日(木)
15:00～16:00
場所 中央採血室

【3 回目ワクチン接種後抗体検査】

日時 平成16年1月21日(水)、22日(木)
15:00～16:00
場所 中央採血室

大阪医科大学俳句会（六・七・八月）

小五郎が孝允となり梅雨あける 塚本務人

携帯で立話する蜻蛉かな 今井雄介

添寝して赤づきん読む蚊遣かな 中川一成

なめくぢり受話器を取れば切れてをり 吉田孝江

額の花背戸の往き来の煮鉢物 飯塚久子

太郎来て叩けよ蝌蚪の水冥し 美濃 眞

目の前を何か過ぎゆく風の盆 由谷三千夫

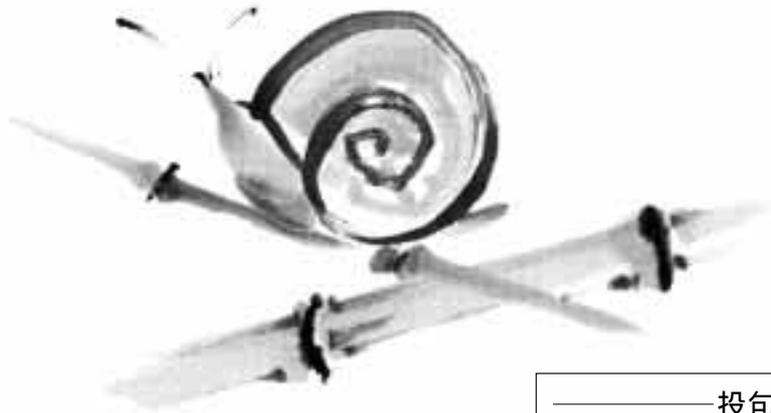
あふられし篝鵜縄に燃えつかず 山崎隆司

わけありてこの頃小や生ビール 同

蝸牛駅長太き蕎麦を打つ (大阪) 宮脇芳美

盆支度母の手書きのメモ頼り 同

荒梅雨や山家の母にメールする (愛媛) 松本小百合



投句のお誘い

一般の方も投句（何句でも）して下されば、
当句会で会員の出句と同じように選句します。
入選句は当欄に掲載します。

宛先は
〒569-8686 高槻市大学町 2-7
大阪医科大学

俳句会

皆様の参加をお待ちしております。

歴史資料館展示資料のご恵与について

本年7月1日付で登録有形文化財となりました看護専門学校々舎「旧別館」につきましては現在、『大阪医科大学歴史資料館』として創立当時の姿に復元する準備を進めております。

歴史資料館には本学の創立から現在に至る関係資料等を展示公開する予定です。

つきましては、同館内に展示する資料を広く学外に募ることにいたしました。

創学以来の資料をお持ちで、この趣旨にご賛同いただける皆様におかれましては、下記の要領でご恵与賜りますようよろしくお願い申し上げます。



旧別館（現看護専門学校々舎）

[募集要領]

1. 展示対象資料について

制服、制帽、学生証、写真（校舎・構内集合写真・授業風景など）、授業ノート、講義資料、実習器具（顕微鏡・解剖用具など）、古い医療器具、その他関連資料

2. 連絡・送付方法について

ご恵与いただけます場合には資料の由来等を別紙（P.34参照）を複製のうえご記入いただき、ご署名のうえ、資料のコピー（機械・備品類につきましては写真）を添えてファックスまたは郵便にてご送付願います。書籍・雑誌などに関しましては、まず題名・著者・発行年・発行所などを記したリストをお送り下さい。

展示・保存のスペースが限られておりますので、展示の可能性や現有のものとの重複がないことを確認し、改めて送付方法のご案内を申し上げます。

3. 資料の展示・保管について

ご恵与いただきました資料につきましては記録整理の上、同資料館各コーナーに寄贈者名等を明記して順次展示いたします。展示資料は一定の期間で入れ替えを行い、展示期間外は資料館内倉庫で保管いたします。

* なお、いったんご恵与いただきました資料等は返却いたしかねますので、予め承知願います。

[連絡先等]

ご恵与にかかるお問い合わせは下記にご連絡願います。

大阪医科大学 歴史資料館設置準備室

連絡先 072-684-6738

E-mail trad@art.osaka-med.ac.jp

大阪医科大学学報 第58号
発行年月 平成15年11月
発行 学校法人 大阪医科大学
編集・発行 総務部
印刷 大日本印刷株式会社
大阪医科大学ホームページ
<http://www.osaka-med.ac.jp/>